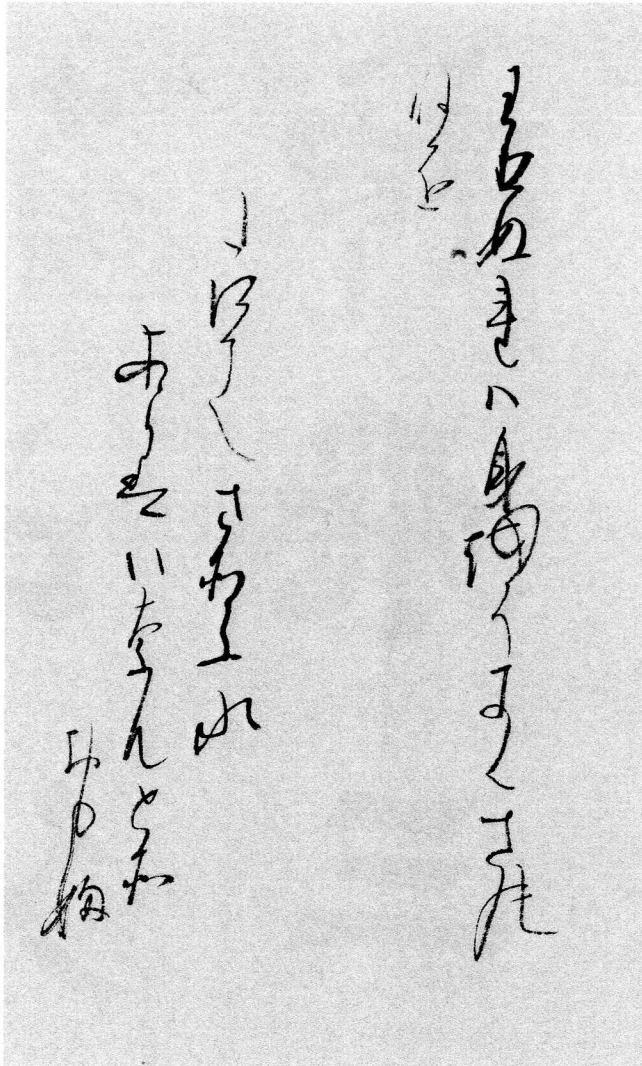


中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (十一)  
— 三十六歌仙 —

わびぬれば身をうき草の根をたえてさそふ水あらばいなむとぞ思ふ

おののこまち  
小野小町

(小野小町)  
生没年不詳。平安前期の歌人。「六歌仙」の一人。出羽の国(今の秋田県・山形県)の出身といわれています。経歴は不明で、伝説化されている女流歌人。恋愛にまつわる歌から、女性らしいしつとりとした歌風がしのばれています。



〈字母〉

王<sup>わ</sup>悲<sup>び</sup>ぬ<sup>れ</sup>ば<sup>ば</sup>身<sup>み</sup>越<sup>を</sup>う<sup>き</sup>支<sup>さ</sup>く<sup>さ</sup>能<sup>の</sup>  
ねを

多<sup>た</sup>江<sup>え</sup>豆<sup>ま</sup>さ<sup>そ</sup>所<sup>ふ</sup>水

あ<sup>ら</sup>盤<sup>は</sup>い<sup>な</sup>无<sup>む</sup>と<sup>所</sup>

お<sup>も</sup>婦<sup>め</sup>

中村素堂先生の書 藤田彩緒先生提供

〈歌意〉

「みじめに落ちぶれてしまったわが身が辛いので、根が切れて水に漂っている草のように誘う水があれば流れゆくままそちらへ行こうと思う。」この歌は、

愛用の面相筆を使い、筆の走る音が聞こえてきます。墨量、行の長さ、行間、連綿の長さ、あらゆるものがバランスをとりながら紙面を形成して書かれています。

『古今和歌集』の938番に載っています。

(中村青藍)